作業療法士が経営する精神訪問看護ステーションの取り組みと課題 Initiatives and Challenges of Mental Health Visiting Nurse Stations Managed by Occupational Therapists

○岩岡拓人 (OT)¹⁾, 西村大地 (OT)²⁾, 新泉一美 (准教授)³⁾

¹⁾合同会社チイキのミカタ訪問看護ステーションいるはす, ²⁾函館市医師会看護・リハビリテーション学院作業療法学科 専任教員, ³⁾東京保健医療専門職大学作業療法学科

Key words: 地域リハビリテーション, 精神障害, 人間作業モデル

<はじめに>

精神科訪問看護に従事する作業療法(以下,OT)の実践報告は少なく,支援内容は見えづらいと報告されている.一方で,精神科訪問看護のOTの役割には,コミュニケーション支援,活動支援,環境調整が期待されているとの報告がある.

そこで報告者は,地域に住む精神障がい者に対する支援を経験する中で,幼少期から長期的な支援による生活能力の改善と,成人後の安定した地域生活の実現を目指す必要性を感じた.

しかし,北海道の旭川市では,不登校児童や発達障がい児に特化した訪問看護ステーションが存在しない.そのため,報告者は令和7年に訪問看護ステーションの開業に至った.

本報告の目的は,不登校児童,発達障がい児,精神疾患を抱える利用者に対する訪問看護の取り組みと今後の展望について述べる.なお,報告に対して利用者の同意を得た.

<方法>

本事業には,精神科訪問看護の経験を有する看護師4名,准看護師1名,OT1名が従事した.

事業所の利用者は,精神疾患を抱える利用者30名,不登校児童2名,発達障がい児6名の合計38名であった.

不登校児童や発達障がい児に対する訪問看護を実施するため,精神科医療機関,福祉サービス,放課後等デイサービス,障がい者グループホーム,行政機関と連携し,支援体制の構築を進めた.

また,家族や子どもに対する相談を目的に無料相談窓口を設置し,利用者の早期発見に努めた.実践における共有評価には, Model of Human Occupation Screening Tool (以下,MOHOST) を活用し,生活状況や支援の方向性を多職種間で共有できる仕組みを構築した.

<結果>

関係機関には,訪問看護計画書と報告書を通じて,利用者の経過評価,在宅ADLの状況,看護方針,OT方針に関する情報共有を行った.

無料相談窓口には,不登校児童の保護者から心理的負担に関する相談が多く寄せられた.

MOHOSTを活用することで,OTを中心に看護師と評価結果を共有し,利用者の価値,興味,環境を考慮した支援が可能となった.

<考察>

本報告の実践では,地域における精神疾患,不登校児童,発達障がい児への支援において重要な示唆を提供するものである.

本事業では,精神科医療機関,福祉サービス,放課後等デイサービス,障がい者グループホームに加え,行政機関と連携することで,包括的な支援体制を構築することができた.

これは,地域における未充足なニーズに対応するうえで不可欠であり,他地域への応用可能性も示唆している.

また,本事業を通じて家族支援の重要性も明らかになった.不登校児童や発達障がい児を支える家族は心理的・物理的負担が大きく,その支援が利用者の生活改善に直結すると考えられる.

MOHOSTを活用した多職種間の共有により,利用者一人ひとりの状況を考慮しながら支援できる点が効果的であり,今後も継続的な評価が求められると考える.

以上より,本事業の取り組みは,地域社会における支援の質と範囲を向上させる可能性を持つモデルケースとして発展が期待される.